

# 株式会社カネゲン

## 2016年度環境活動レポート

(2015年7月～2016年6月)



作成日：2016年8月31日

## 目次

1、環境方針	.....	P. 2
2、登録事業所の概要	.....	P. 2
3、環境経営システム組織図	.....	P. 3
4、主な環境負荷の実績	.....	P. 4
5、環境目標及びその実績	.....	P. 4
6、環境活動の取り組み計画と評価及び次年度の取り組み内容	.....	P. 4
7、環境関連法規制等の遵守状況	.....	P. 5
8、その他の取り組みを紹介	.....	P. 6
9、代表者による評価	.....	P. 6

# 環境方針

## <環境基本理念>

株式会社カネゲンは、相互扶助の原理に基づいて三方よしの経営を行い、社員一人ひとりが地球環境の保全向上が人類共通の最重要課題であることを認識し、環境負荷の継続的低減及び持続的に発展できる社会の実現に寄与すべく全社一丸となって取り組みます。

## <環境方針>

- 1、 当社の事業活動を通じて、二酸化炭素、産業廃棄物、使用総水量の削減に努めます。また、省資源、省エネルギーにつながる設備投資を継続的に検討・実施します。
- 2、 当社の事業活動を通じて、エコマーク商品やグリーン商品等、環境にやさしい商品の使用、販売を積極的に実施します。また取引先企業に対して環境経営の啓蒙活動をいたします。
- 3、 環境関連の法規制や遵守すべき事項を、企業の社会的責任として遵守します。
- 4、 全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、技術的・経済的に可能な範囲で環境活動計画を設定し継続的に維持・改善を行います。また環境活動を公開します。

制定日 : 2013年1月8日

株式会社カネゲン 代表取締役社長

兼杉裕介

### □登録事業所の概要

- (1) 事業所名及び代表者名

株式会社カネゲン

代表取締役社長 兼杉 裕介

- (2) 所在地

本社：埼玉県さいたま市北区宮原町4丁目84番

盆栽支店：埼玉県さいたま市北区盆栽町458

- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 管理部部長 和田 賢 TEL：048-667-4111

担当者 盆栽支店長 細井 英夫 TEL：048-871-5514

- (4) 事業内容（認証・登録の範囲）

文具・事務用品 卸売

- (5) 事業の規模

年商（2016年度） 21.7億円

	本社	支店
従業員	32名	22名
延べ床面積	386㎡	337㎡

- (6) 事業年度 7月～翌年6月

- (7) 対象範囲（認証・登録範囲）

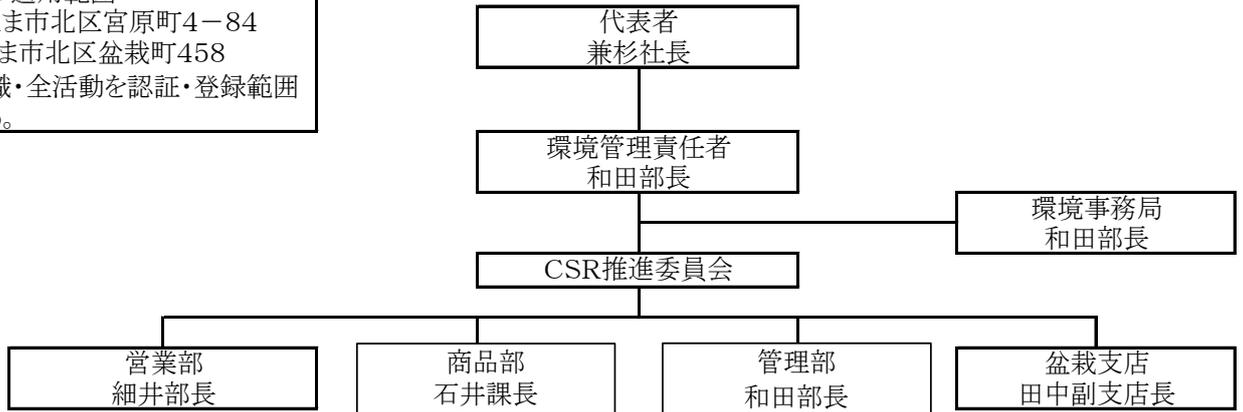
本社・盆栽支店、全組織・全活動を認証・登録範囲とする。

□環境経営システム組織図

株式会社カネゲン

環境経営システム組織図

認証・登録の適用範囲  
 住所:さいたま市北区宮原町4-84  
 さいたま市北区盆栽町458  
 活動:全組織・全活動を認証・登録範囲とする。



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任。</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。</li> <li>環境管理責任者を任命。</li> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知。</li> <li>環境目標・環境活動計画書を承認。</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施。</li> <li>環境活動レポートの承認。</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理。</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認。</li> <li>環境目標・環境活動計画書を確認。</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告。</li> <li>環境活動レポートの確認。</li> </ul>
CSR推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSRへの取り組みに関する企画立案。</li> <li>CSR取り組み方針や施策などの浸透を図る。</li> <li>CSR取り組み計画の進捗管理、管理体制の構築。</li> <li>CSR社員教育・研修の実施。</li> <li>CSR関連情報の収集と社内外への情報発信、啓発活動の推進。</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。</li> <li>環境目標、環境活動計画書原案の作成。</li> <li>環境活動の実績集計。</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表の作成。</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口。</li> <li>環境活動レポートの作成、公開。(事務所に備付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営システムの実施。</li> <li>自部門における環境方針の周知。</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施。</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。</li> <li>特定された項目の手順書作成及び運用管理。</li> <li>自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練を実施、記録の作成。</li> <li>自部門の問題点発見、是正、予防処置の実施。</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。</li> </ul>

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2012年度 2011/7-2012/6	2013年度 2012/7-2013/6	2014年度 2013/7-2014/6	2015年度 2014/7-2015/6	2016年度 2015/7-2016/6
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub> /	73,219	70,783	76,577	77,523	59,065
廃棄物排出量	トン/年	—	—	—	4.44	3.56
一般廃棄物排出量	トン/年	—	—	—	3.69	3.56
産業廃棄物排出量	トン/年	—	—	—	0.75	0.00
総排水量	m <sup>3</sup> /年	393	407	439	372	372

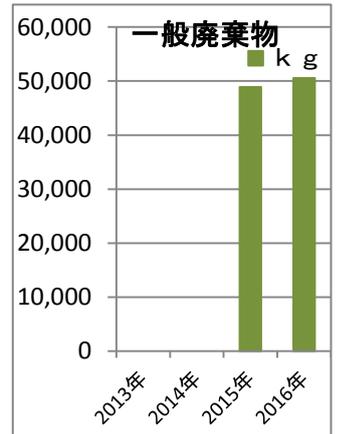
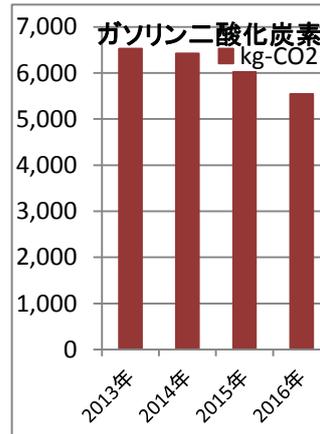
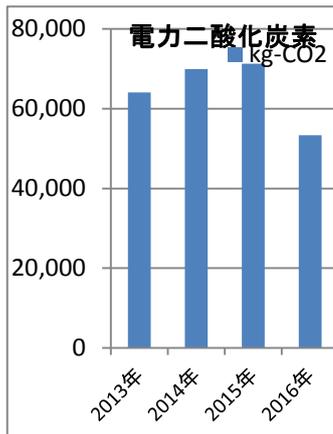
※廃棄物排出量に関しては基準年度は記録しておりませんでした。※廃棄物排出量は最終処分量にて記載

□環境目標及びその実績

項目	年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度		2017年度
		2012/7-2013/6 基準年度	2013/7-2014/6 (実績) 基準年度比	2014/7-2015/6 (実績) 基準年度比	2015/7-2016/6 (目標) 基準年度比	(実績) 昨年対比	(目標) 基準年度比
電力の二酸化炭素 排出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	64,036	69,912 %	71,284 111%	62,115 97%	53,308 75%	61,475 96%
ガソリンの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	6,525	6,428 %	6,022 92%	6,329 97%	5,546 92%	6,264 96%
液化石油ガスの二酸化炭 素	kg-CO <sub>2</sub>	222	238 107%	217 97%	216 97%	211 97%	216 96%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	70,783	76,577	77,523	68,660	59,065	67,954
一般廃棄物の削減	(Kg/年)	—	— %	48,907 —	44,016 90%	50,582 103%	38,734 88%
産業廃棄物の適正処分	(Kg/年)	0	— %	750 —	675 100%	0 0%	675 100%
節水	(m <sup>3</sup> /年)	407	439 108%	372 91%	374 92%	372 100%	370 91%

※廃棄物排出量に関しては基準年度は記録しておりませんでした。

※有害化学物質の取扱いはありません。 ※廃棄物はリサイクルも含む総量記載



□環境活動の取り組み計画と評価及び次年度の取り組み内容

取り組み計画	達成状況	単位 基準年度比	評価 (結果と次年度の取り組み)
<b>電力の削減</b> ・事務所推奨設定温度推進 (冷房28℃ 暖房20℃) ・不要照明の消灯を促進 ・機器類未使用時のOFF習慣 ・LED電球への変更 ・節電・クールビズ運動推進 ・電力削減手順書の作成	基準年度 64,036 目標 62,115 実績 51,916	kg-CO <sub>2</sub> 97% 81%	電力会社変更による排出係数の低下で排出量の値は下がったが、電力量は増加。倉庫照明スイッチの細分化実施。全ての電気機器の削減検討を実施したが空調による影響が一番大きいと思われる。 ・照明/空調機器の使用ルールを徹底し適切なON・OFFを実施する。 ・終了前の早めのOFFを心掛ける。 ・不要電気製品の撤去。

取り組み計画	達成状況		単位 基準年度比	評価（結果と次年度の取組み）
<b>ガソリン使用量の削減</b> ・エコドライブ <sup>®</sup> 運動展開 ・アイドリングストップ ・車利用機会の削減 ・冷房の控えめ使用	基準年度	6,525	kg-CO2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両管理者は毎月燃費確認。</li> <li>・外出時の車両使用ルールを策定して実施。公共交通機関利用を促進。</li> <li>・車両使用ルール厳守の数値化が出来る仕組みの検討。</li> <li>・月1回空気圧点検継続。</li> </ul>
目標	6,329	97%		
実績	5,546	85%		
<b>一般廃棄物の削減</b> ・分別廃棄の実施 ・廃棄物削減方法の検討 ・分別処理場の見学 ・巻き芯ゴミ回収エコ活動継続 ・裏紙使用・PPC用紙使用量削減 ・マイ箸・マイカップ <sup>®</sup> ・マイ水筒運動	基準年度	—	kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部署に紙類専用ゴミ入れを設置し極力リサイクルゴミに振分け実施。</li> <li>又、不要ダンボールを梱包の緩衝材として利用を促進。メーカー不要控え伝票の削減実施。（7社）</li> <li>・メーカーパレット、廃棄せず返却継続</li> <li>・廃棄物置き場の更なる5S運動の推進。</li> </ul>
目標	44,016	%		
実績	50,582	%		
<b>産業廃棄物(廃プラ)の適正処分</b>	基準年度	—	kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械・オフィス家具の故障や破損などで発生するだけ。削減対策の実施が難しい。今年度も発生は少ない。</li> <li>・継続検討します。</li> </ul>
目標	675	%		
実績	0	%		
<b>節水</b> ・節水の呼び掛け、POPの掲示 ・節水対策 ・水漏れチェック	前年	407	m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本社女子トイレを改修し、タンクを小型に。手洗い蛇口を自動水栓にして節水環境に。貯水槽の洗浄実施。</li> </ul>
目標	374	92%		
実績	372	91%		
<b>グリーン購入</b> ・用度品のエコマーク品へ切换え	前年	—		<ul style="list-style-type: none"> <li>大手仕入先18についてエコ商品登録を実施したが、まだ不十分。</li> <li>・エコ商品の販売実績の数値化推進。</li> </ul>
目標	—			
実績	—			
<b>本業に関わる環境への配慮</b> ・エコマーク認定商品・グリーン購入適商品の販売比率アップ	前年	—		<ul style="list-style-type: none"> <li>エコマーク商品販売状況明確化の為マスターへの区分登録を進める。</li> <li>・マスター件数が多く、継続実施。</li> </ul>
目標	—			
実績	—			

総括（結果と今後の方向）

・社員を4チームに分け原因確認と実施計画を策定して進めましたが、実施が遅くなってしまい効果は次年度に期待。・廃棄物の計量に関しては、基準となるゴミ箱の大きさが維持できず、数値が曖昧になりつつある。・さらに意識を高められるよう工夫が必要。・チーム別推進の継続。

※廃棄物の実績集計は前年度途中から実施した為、前年度数値は未記入。

※二酸化炭素の排出係数は、㈱サイサンの2015年度の実排出係数0.383kg-CO2/kWhを使用しました。

□環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
資源有効利用促進法	リサイクル法
グリーン購入法	国・その他公共団体、地方公共団体：努力義務、国民：責務のみ
浄化槽法	浄化槽の設置・保守点検・清掃及び製造についての規制等
下水道法	公共下水道を使用
労働安全衛生法	職場における労働者の健康と安全を確保し、快適な作業環境をつくる
フロン排出抑制法	業務用空調設備の定期点検

※廃棄物処理法遵守については、収集運搬者・処分業者との契約済、マニフェスト伝票(A票～E票)管理済、産業廃棄物管理票に関する報告書提出済、産業廃棄物置場の設置と看板表示済。

※浄化槽法遵守については、定期水質検査実施済・定期点検実施済。

※過去5年間、環境関連法規制等への違反・訴訟及び環境に関する外部からの苦情はありませんでした。

※環境関連法規制等の遵守状況の定期評価・環境法規制等の逸脱はありませんでした。

## □その他の取り組みを紹介

照明スイッチの改修  
分電盤一括ON/OFFを細分化して現場へ



スイッチの照明場所を明確にしてロスを減少



トイレを水容量の少ないタンクに変更  
自動水栓に取替え節水促進



地震に備え、避難訓練実施



## □代表者による評価

社内を4つのチームに分けて取組を実施することにより確実に環境への取組意識の高まった1年であったと思います。目標に対しては、特に一般廃棄物の総量が物量が増えていないのに増えてしまったことが少し残念です。原因と対策を早急を実施していく必要があると思われます。また次年度はチームでの取組がもっと活発化するような仕掛けを実施し、さらにエコ商品の販売実績の数値化ができるようにすすめていければと思います。

株式会社カネゲン 代表取締役社長  
兼 杉 裕介